

三井住友海上あいおい生命
ユナイテッド・インシュアランス

がん啓発セミナーを開催

大腸がん検診の重要性訴える

三井住友海上あいおい生命と、同社および三井住友海上の商品をメインに扱う代理店のユナイテッド・インシユアランス(株)は9月2日、埼玉県さいたま市の浦和コミュニケーションセンターで、がん啓発セミナー「大腸がん早期発見・早期治療のカギ」を知っておきたい内視鏡の今(主催…埼玉県)を開催した。ユナイテッド・インシユアランスは以前から、埼玉県が実施するがん検診受診啓発セミナーに参画しており、そうした取り組みへの信頼を背景に、1月に同県と包括連携協定を締結。今回のセミナーは同協定に基づく活動の一環として行われた。セミナーでは、同社の長洲貴美子氏が「大腸がんの基礎知識と健診の重要性」と題して講演した他、オリンパス(株)日本地域統括社会貢献の村上晋一郎氏が内視鏡の役割や最新技術などを紹介し、市民や企業担当者など61人の参加者が熱心に耳を傾けた。

めにセミナーを開催している」と説明。その上で、参加者に向けて「本日の講演を皆さま自身の健康管理に役立てていただく

が、大腸がんの基礎知識や早期発見の重要性について、がん罹患者の経験談を交えながら具体的に解説した。

期段階では自覚症状がほとんど現れないことなどを紹介した上で、便に血が混じる、便が細くな

人に1人が罹患（りかん）するとされているが、早期発見・早期治療により治療率が大きく向上することから、埼玉県ではがん検診の重要性を訴え受診を促進させるた

とともに、企業の方には、ご自身だけでなく職場での健康管理や仕事と治療の両立支援にも生かしていただければ幸いです」と呼び掛けた。

第1部では、長洲氏

まず、大腸がんの罹患
者数・死亡者数、特徴や
傾向、ステージ分類など
について概説し、男女と
もに罹患率が高く、40歳
代から増加し60歳代以上
に多く見られること、初

することを示し、早期発見・早期治療が生存率向上に直結するとして、がん検診の重要性を強調した。

次に、大腸がん罹患者の経験談を紹介し、がん発覚から内視鏡検査を経ての腹腔鏡手術、治療終了までの経過を説明し

る、腹部膨満感や腹痛がある等の症状が見られた場合には速やかに医療機関を受診するよう呼び掛けた。

また、大腸がんの5年相対生存率について、ステージ1で発見された場合は98・8%、ステージ

一方で、大腸がんの早期発見には検診が重要であるにもかかわらず、受診率は男女ともに半数を下回っており、さらに精密検査が必要とされた人のうち、実際に受診した人の割合は約70%にとどまり、3割が未受診のまま

た。併せて、精密検査を早期に受けていれば内視鏡手術のみで済んだのかもしれないという後悔や、手術日までの間に他の臓器に転移するのではないかという不安など、本人の心情も伝えた。

また、がんと診断された。併せて、精密検査を早期に受けていれば内視鏡手術のみで済んだのかもしれないという後悔や、手術日までの間に他の臓器に転移するのではないかという不安など、本人の心情も伝えた。

また、がんと診断された。併せて、精密検査を早期に受けていれば内視鏡手術のみで済んだのかもしれないという後悔や、手術日までの間に他の臓器に転移するのではないかという不安など、本人の心情も伝えた。

などについて説明し、早期発見のために年に1回を目安に定期的な検診を受けること、預貯金や民間の生命保険などによる自助努力で経済的リスクに備えておくことの重要性を訴えた。

閉会に当たりあいさつ

早期発見・治療の意

我を解説

主治医に伝え、その情報
を基に主治医が両立に必
要な配慮を判断する「両
立支援カード」を紹介
し、企業側に適切なサポ
ートを促すのに有効であ
るとして活用を推奨し
た。

神田でも大きな意義があ

とした無料セミナーを実施していることを紹介した上で、「定期的な検診の受診によって、健康を維持できる方が一人でも増えることを願っている」と結んだ。

第2部では、村上氏

店長の藤田勝芳氏は、進歩した内視鏡技術の恩恵を受けるためにも、がん検診を受診すべきだと強く呼び掛けた上で、「ぜひ皆さまの家庭や職場でも、本日の話を共有いただければと思う。検診の

見・早期治療が生存率向上に直結するとして、がん検診の重要性を強調した。

の経験談を紹介し、がん発覚から内視鏡検査を経ての腹腔鏡手術、治療終了までの経過を説明し

るものの、がん治療後の職場復帰には身体的・精神的な負担が伴い、決して元通りに働けるわけでもない。この他、健康診断とがん検診の違いや、がん予防のポイント、大腸がんの治療方法および治療費

が、大腸がん検診と内視鏡検査に関する意識調査の結果を踏まえ、検診による早期発見・早期治療めくくった。

「人生投資アカデミー」を開校
18〜30歳前後を対象、10月から

18
〜
30歳前後を対象、10月から

ソニー・ナンシャルグループ（以下、SFGI）は、18〜30歳の次世代を対象と
した新たな探究型金融教育プログラム「人生投資アカデミー」を10月から開校する。受講
そして「自分はどう生きたのか」といった根本的な問いを出発点に、「お金をはじめと

半年間、原則隔週土曜日に都内で行われる全13日程の体験・講義・グループワークに参加する予定。

同アカデミーは、従来の「お金の増やし方」を学ぶ金融講座とは一線を画するものとし、「なぜお金が必要なのか」「お金とどう向き合えばいいのか」、

資産（時間、知、人脈）をどのように育んで組み合わせ（→投資し）、どのように人生を豊かなものにしていくか」という課題に気づきと発見をもたらすプログラムを実施していく。

ソニーグループ各社や専門家・有識者の協力のもと、刺激しあえ

ソニーグループにおいて「人を支える」事業を担うソニーフィナンシャルグループ（以下、ソニーFG）は、生きる土台である「健康寿命」と、経済的な健全性である「資産寿命」に加えて、「自分らしく生きる」ことを「感動寿命」と定義している。この三つの寿命を礎に、人生におけるアカデミーでは、この三つの寿命を礎としながら、ソニーFGの知見と外部講師による多角的なアプローチで、自分らしく生きるための力を身に付けられるプログラムを提供するとしている。

カリキュラムはグループ内外のリソースを結集して構成される。

い。各分野の第一線で活躍する外部講師陣に、まる講義やワークシヨブ、切磋琢磨できる仲間とのディスカッションを通して、受講生は好奇心と探求心を刺激し育むとしている。

キービジュアルは、「ファーストペンギン」をモチーフに制作。同社は、群れのなかから危険な海へと飛

通じるものがあるとしている。「ファーストペンギン」のように新たな挑戦へと踏み出していくきっかけを、「自由の正体」へと飛び込んでいく力を、そして、本当に自由で自分らしい生き方の前例を、このアカデミーから生み出していきたいという志を込めている。

して、本当の“自由”と“感動”に満ちた人生を倅押しすることを目指す。

ことに挑戦する人」を意味し、「人のやらないうことをやる」というソニースピリットにも

らしく生きる”ことを
「感動寿命」と定義し
ている。この三つの寿
命を礎に、人生におけ
る
するとしている。
カリキュラムはグル
ープ内外のリソースを
結集して構成される。

を、このアカデミーから生み出していきたいという志を込めている。

